

令和3年度倉敷市立自然史博物館協議会 議事録（要旨）

開催日時) 令和3年7月28日(水) 14～16時

開催場所) 倉敷市立美術館3階第2会議室

協議事項) 令和2年度事業報告
令和2年度決算報告
令和3年度事業計画
令和3年度予算計画
博物館の建替え整備の方向性について
その他

出席委員) 碓京子委員, 片岡博行委員, 鴨生知久委員, 小林祥一委員, 中西善之委員, 堀江明香委員, 三宅誠治委員, 宮原勝志委員, 山崎法子委員, 吉岡勉委員

欠席委員) なし

事務局) 井上正義教育長, 三宅健一郎生涯学習部長, 高嶋幸慶館長, 前田一郎主幹, 奥島雄一主幹, 武智泰史主任, 萩原知博主任, 江田伸司学芸員, 鐵慎太郎学芸員, 狩山俊悟会計年度任用職員

傍聴者) なし

議事録（要旨）

1 開会

（事務局）これより令和3年度倉敷市立自然史博物館協議会を開催する。

2 開会あいさつ

井上正義教育長

今回の協議会では例年のご協議に加えまして、倉敷市立自然史博物館の建て替え整備についての協議もしていただけるとのことで、これについてはかねてより収蔵庫を確保してほしいといった声が寄せられています。忌憚のないご発言をいただければと存じます。

3 新任委員および委員・職員自己紹介

4 協議

（1）令和2年度事業報告について

（事務局）以下のとおり、中期計画に沿って資料をもとに説明した。

資料収集保管事業）もうすぐ収蔵標本が100万点になる。収蔵標本を使った学術研究なども行われた。野外での収集活動は新型コロナウイルスの流行で十分行えていない。

展示事業）新型コロナウイルスの流行で、夏に開催予定だった第29回特別展「岡山県のレッドデータ生物2020」は年度末の実施となり、観覧者数は大幅減となった。

教育普及事業）新型コロナウイルスの流行で、自然観察会・博物館講座・各種教室などは中止や延期になったものが多く、募集も少人数の人数制限を設けて実施した。なお、新型コロナウイルスの流行で、ボランティアの活動などにも影響が出た。

（2）令和2年度決算見込報告について

（事務局）以下のとおり、資料をもとに対前年比で増減額の大きなものを中心に説明した。

歳入）新型コロナウイルスの流行で特別展観覧料は182千円減少した。しかし常設展観覧料は73千円の増加となった。

書籍売払雑入は図録を作成したため170千円増加した。

歳出）管理運営事業は光熱水費が539千円減少したが、新型コロナウイルス対策を含めた修繕料が611千円増加し、全体で見ると176千円増加した。

特別展事業は図録の印刷や執筆謝金、展示物の出品謝金などで、503千円増加した。

教育普及事業は高梁川流域自治体連携事業の消耗品購入や印刷などで138千円増加した。

自然史博物館まつり事業は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止としたため、583千円減少した。一部執行があるのは、代替として自然史博物館秋冬スペシャルを実施したものに伴うもの。

議 長：事務局の以上の説明について、ご意見・ご質問等はありませんか。

委員：令和2年度の決算額はなぜ見込額となっているのか、また、歳入と歳出の合計が異なるのはなぜか。

事務局：令和2年度の決算額は9月議会で採決されて正式なものとして認められる。このため、現段階では見込額としている。また、歳入は一般財源からの補填分があるので、この資料では歳入と歳出の合計が異なっている。

委員：収蔵資料は多いと聞いたが、標本にICタグをつけて管理できれば効率的になるのではないか。また、倉敷市立自然史博物館のHPをスマートフォンで見やすいデザインに改良すれば、アクセス数は増えるのではないか。

事務局：標本管理については人員的に今の方法を変えて管理していくのは難しい。またHPについてはセキュリティ面、および、自前での更新のやりやすさなどから、現状のようにしている。

(3) 令和3年度事業計画について

(事務局) 以下のとおり、資料をもとに説明した。

展示では、新型コロナウイルスの流行で、5月14日～6月20日に臨時休館になってしまい、特別陳列の「新着資料展<昆虫 後期>」と「宮沢賢治の石ものがたり」は会期が短くなった。なお、現在展示している特別陳列「畠田和一貝類コレクション展」は鏡野町から寄託を受けた貝類標本を展示しており、これは昨年度、岡山県から刊行された「岡山県版レッドデータ生物2020」の貝類のリストを大幅に書き換える根拠となった極めて貴重な貝類コレクションである。また、第30回特別展「きらめき☆ときめき昆虫展」が特別展示室にて行われている。

自然観察会は、4月は新型コロナウイルスに注意しながら定員を設けるなどして実施した。5月以降は延期としたものがあり、流行状況に注意しながら慎重に実施していきたい。なお、季節を逃すと実施できないもの、および、貸切バスに乗りして実施するものについてはやむなく中止とさせていただいた。

講座などについては募集人数を同居家族などの少人数に限って注意しながら実施していきたい。

(4) 令和3年度予算計画について

(事務局) 以下のとおり、対前年比で増減額の大きなものを中心に資料をもとに説明した。

歳入) 新型コロナウイルスの影響が心配されるが、特別展「きらめき☆ときめき昆虫展」の観覧者の増加などで、観覧料の増加(545千円)を見込んでいる。

書籍売払雑入は、今年度は特別展の図録の作成がなく、その売上げがないので168千円の減少を見込んでいる。

歳出) 管理運営事業は、光熱水費の減少などで、467千円の減少を見込んでいる。

特別展事業は図録の印刷や執筆謝金がないので、1,302千円の減少を見込んでいる。教育普及事業は高梁川流域自治体連携事業の印刷がないことなどで173千円の減少を

見込んでいる。

議長：事務局の以上の説明について、ご意見・ご質問等はありませんか。

委員：新型コロナウイルスの影響で観覧者数が減っているが、令和3年度の観覧料収入見込み額が令和2年度に比べ減っていないのはなぜか。また、令和3年度に新型コロナウイルス対策の予算をあげていないのはなぜか。

事務局：昨年度は新型コロナウイルスの影響で全体の観覧者数は大幅減となったが、親子連れの観覧者が増加し、常設展の有料観覧者数はあまり減らなかった。また、今年度は特別展の観覧料収入の増加を見込んでいる。新型コロナウイルス対策の経費は令和2年度の予算を使って対策済みのものが多いので、今年度には特にその予算はあげていない。

委員：新型コロナウイルスの時でもあり、自宅にしながら展示を見られるようなHPの工夫が必要ではないか。また、第30回特別展「きらめき☆ときめき昆虫展」のチラシは表面に写っているものが何か一見してわからない。デザイナーなどに委託して作成したらどうか。

事務局：このチラシは職員がパワーポイントで作成し、印刷会社にそのまま印刷してもらったものである。昆虫が苦手な人は昆虫の全体像が写っていると嫌悪感を抱くと考え、あえてきれいな色の部分だけを切り取ってデザインしたものである。

委員：自然史博物館だけの問題ではなく、市の体制として専任のデザイナーの職員がいればより良いチラシやHPなどの作成ができると思う。また、会議のやり方として、リモート方式はできないのか。リモート会議システムが市役所内にあれば、さまざまな会議もやりやすくなるのではないか。

事務局：市にはデザイナーはいない。リモート会議はできるようになっている。ただし、参加者側にそのためのインフラがいる。なお、教育委員会の会議はリモート会議でやっている。一方、オンライン発信はできていない。あらかじめ録画したユーチューブの動画をHPにリンクさせている部署もある。

委員：自然史博物館の展示などをオンラインで見ることができればと思うが、機材をそろえる必要もあると思う。なお、新型コロナウイルスの時代の今、アウトドアに関心が高まっているのを感じる。今こそ自然史博物館が情報発信すべき時と思う。それがSDGsにつながっていくと思う。

(5) 博物館の建替え整備の方向性について

事務局：今年の4月に示された倉敷市庁舎等再編基本構想の中で、自然史博物館はライフパークへ建替え移転することになった。時期は中央図書館の移転に合わせた令和7年度までに整備を行

う。限られた予算の中で、今後、どのような自然史博物館を建設するか、その手法等も含めて検討し、具体化していきたい。皆様のご意見をお聞かせ願いたい。

議長：事務局の以上の説明について、ご意見・ご質問はありませんか。

委員：日頃、自然史博物館を利用させてもらっている立場からは、まず収蔵庫が重要と思う。水害などの自然災害に耐えうるものを期待したい。地下だと水没の危険がある。地上だと面積的な制約があると思う。県内で、自然の標本を寄贈し、保管してもらえる場所はこの自然史博物館以外にはないと思われる。現在、自然史博物館には多くの標本が収蔵されていると思うが、将来を見据え、さらにより多くの標本を収蔵できるような収蔵庫を望む。

委員：ターゲットをどうするかということも重要と思う。小学生や中学生などと、大人との感覚とはかなり違う。子どもの感覚を取り入れた展示も必要と思う。資料館などでも、映像などが取り入れられているところも多い。

委員：一般市民の感覚とは異なると思うが、同じと思われる標本でもたくさん集めておけば、今まで同じと思われていたものが実は別種ということが判明した、ということが昆虫や植物の世界ではよくある。また、団塊の世代が収集していた標本が、手放されていく時代にさしかかっているので、収蔵庫の充実はぜひお願いしたい。また、畠田和一の貝類コレクションのように岡山県ではすでに絶滅したものがそのコレクションの中から見つかるというケースもある。

委員：収蔵庫の大きさはどのくらいになるのか。

事務局：ライフパークのある所は住宅地なので、新たに土地を確保して大きくすることはできない。住宅地の環境に配慮しながら建設していく必要がある。収蔵庫の大きさがどのくらいになるかは現段階では申し上げられない。

委員：標本の収蔵数は多いようだが、この機に管理を電子化して、将来的に少ない人数で管理できるようにしていただきたい。また、昔、自然史博物館に来てつまらなかったという記憶があり、二度と来ていないが、また来たいと思えるような自然史博物館にしてほしい。

委員：組織を変えるというわけではないが、人員を増やすことはあるか。また、エデュケーターの人員を確保することが自然史博物館の展示や教育普及活動に役立つと思われる。

委員：立地場所も重要と思われる。現在の場所ならば電車などの交通機関が発達しており利用しやすい。収蔵庫だけライフパークにあるとか、そういう方法もあるのではないか。

議長：最後に、自然史博物館について、自由に意見を述べていただきたい。

委員：資料の登録などの作業が追い付いていないとのことであるが、ボランティアの人員は今で精いっぱいなのか。ボランティアが多いとマンパワーが確保できるほかに、資料の管理の電子化などのアイデアも出てくると思う。

事務局：ボランティアの方に作業していただけるようなスペースはまだ余裕がある。ボランティアの募集は随時行っているが、なかなか応募がなく、集まっていないのが現状である。

委員：自然に関心を持つ男女比に関心があるが、最近は博士課程に進む女性は少ない。専門分野に進まなくても自然に興味を持つ女性が多くなると全体的に自然科学の分野が面白くなるように思う。今の自然史博物館の観覧者の男女比はわからないか。

事務局：統計を取っていないのでわからないが、現在、開催中の第30回特別展「きらめき☆ときめき昆虫展」の展示室の様子では親子連れが多く、特に男女比に差があるとは思えない。年齢が上がると差が出るのかもしれない。現在「むしむし探検隊」という小学5年～高校生を対象とした昆虫分野のプログラムを実施しているが、男女比は13：1くらいである。

委員：確かに年齢が上がると興味を持つ人の男女比に差がでてくると思う。これを何とかすべく、工夫できればと思う。

委員：女性はきれいなものが好きな傾向があるように思う。男性はとるのが好きという傾向があるのかとも思う。最近では女性も活発なので必ずしもそうとは言い切れないかもしれないが。展示などの企画で男女の視点の違いなどを考慮してもよいかもしれない。

事務局：昨年、当館で実施した魚の観察会では女の子も多かった。液浸標本を見学する時など、女の子の方が楽しんでいることが多い。また、当館のボランティアでは、脊椎動物グループでは女性が多い。女の子が自然から離れていくのは大人の否定的な言葉があるのかもしれない。

委員：都会の自然史博物館でも資料のデータベース化が遅れているところがある。それに比べ、倉敷市立自然史博物館は進んでいると思う。

委員：幼少期に自然に親しんだ人は、途中、一度自然に興味を失うことがあっても、また自然に興味をもつという傾向があると思う。自然史博物館の活動は人々の自然への興味づけをしている良い活動であると思う。

議長：本日の協議を終了させていただきます。

これまで長い間、大変お世話になりました。本博物館の益々のご発展をお祈り申し上げます。

5 閉会あいさつ

三宅健一郎生涯学習部長

6 閉会

(事務局) これにて令和3年度倉敷市立自然史博物館協議会を終了する。

協議会終了後、第30回特別展「きらめき☆ときめき昆虫展」を見学。

以上を、令和3年7月28日開催の令和3年度倉敷市立自然史博物館協議会議事録(要旨)とすることに同意します。

令和3年 9 月 5 日

倉敷市立自然史博物館協議会
会長 小林祥一

